



「生きる」を支える
世田谷キャンパス 大学本部
大学院・応用生物科学部
生命科学部・地域環境科学部
国際食料情報学部
厚木キャンパス
大学院・農学部
北海道オホーツクキャンパス
大学院・生物産業学部

4月・7月・12月 発行
編集 東京農業大学企画広報室
〒156-8502
東京都世田谷区桜丘1-1-1
<https://www.nodai.ac.jp>

学び舎としてのオホーツクで「探究学習」...
小清水ガストロノミー...
日本全国を横断するフィールド系施設
「活躍する卒業生」夫婦で経営する有機農場
収穫祭...3年ぶりの対面での開催
農大貢献賞に野口智弘教授/プロ野球ドラフト他...
④ ③ ③ ② ②

SNSでも情報発信!

YouTube Instagram Facebook Twitter

亜熱帯の島嶼環境から享受される宝もの

学長の愛したフィールドの旅 宮古亜熱帯農場篇

キラッと輝く学生生活の最前線現場を江口学長による書き下ろし紀行文として紹介する「学長の愛したフィールドの旅」。2回目は宮古亜熱帯農場篇です。

動植物を育む亜熱帯性海洋気候の楽園

大学院の頃である。南 涼水は生気を蘇らせた。西諸島の林床に発生する。その農場こそが東京農業大学の「オアシス」である。大学宮古亜熱帯農場である。この出会いを求めて宮古島を訪れた。きのこを求めて島を彷徨った。000000離れた沖縄県宮古島市に設置されている。宮古島の総面積は蒸散湿度を放ち身体から精魂を奪っていった。疲れ果てた重い脚で身体を運び農場で差し出された

ないことから生活用水が地下水に頼られている。初めて宮古島を訪れた時に地下水を守る環境作りの大切さを語ってくれた島人の話が記憶に刻まれている。宮古亜熱帯農場は、1986年に熱帯農業に関する実習教育と試験研究を目的に開設された。圃場は管理基地区から北へ約2km広がり、総面積9.5haの土地にハウスや堆肥舎などの施設が設置され、露地にはヤマイモの品種保存圃場やサトウキビ畑などがある。上空から全貌を見ると試験圃場、農場研修生圃場、草地、農業機械実習用地、防風林帯などが配置されている。陸上の緑や土壌のコントラストと宮古ブルーに染まるサンゴ礁の豊かな海洋、亜熱帯ならではの空の広がり

稲、豆類、コーヒー、マオウなど多様な熱帯・亜熱帯の作物の遺伝資源の保存とそれらの活用に関する研究が推進されている。農場と地域が連携した研究としてヤマイモ焼酎の原料となるダイジョウの肥培管理法の開発や適正品種の選抜、宮古島の特産品であるマンゴーの出荷時期を多様化させるための花芽分化の制御や果実の長期貯蔵方法の開発などの生理・生態学的な研究にも取り組んでおり、地域農業の発展にも貢献している。

宮古島に訪れた。きのこを求めて島を彷徨った。000000離れた沖縄県宮古島市に設置されている。宮古島の総面積は蒸散湿度を放ち身体から精魂を奪っていった。疲れ果てた重い脚で身体を運び農場で差し出された

宮古亜熱帯農場は、1986年に熱帯農業に関する実習教育と試験研究を目的に開設された。圃場は管理基地区から北へ約2km広がり、総面積9.5haの土地にハウスや堆肥舎などの施設が設置され、露地にはヤマイモの品種保存圃場やサトウキビ畑などがある。上空から全貌を見ると試験圃場、農場研修生圃場、草地、農業機械実習用地、防風林帯などが配置されている。陸上の緑や土壌のコントラストと宮古ブルーに染まるサンゴ礁の豊かな海洋、亜熱帯ならではの空の広がり



海と空に包まれた宮古亜熱帯農場



文・江口文陽(学長、写真・阿部雄介氏)



和牛のオリンピック 第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会

第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会は、10月6〜10日の5日間わたって、鹿児島県霧島市にて開催された。全国和牛能力共進会とは、全国の優秀な和牛を一堂に集め、改良の成果を競う大会で、「和牛のオリンピック」とも称される。牛の姿・形を審査する【種牛の部】と、肥育牛の肉質等を審査する【肉牛の部】がある。今年大会では、過去最多となる41道府県から選抜された和牛約440頭が鹿児島に集結し、競い合った。審査会場が満員とあって、いかに多くの観客で賑わいを見せる中、入賞した本学卒業生の活躍もあり、東京農大としても大変喜ばしいことである。会場では、富士山を背景に富士農場で飼育している【種牛の部】と、肥育牛の肉質等を審査する【肉牛の部】がある。今年大会では、過去最多となる41道府県から選抜された和牛約440頭が鹿児島に集結し、競い合った。審査会場が満員とあって、いかに多くの観客で賑わいを見せる中、入賞した本学卒業生の活躍もあり、東京農大としても大変喜ばしいことである。会場では、富士山を背景に富士農場で飼育している

東京農業大学がさらに二ホンバレーの2品種を11月初旬に収穫した。刈り取り後は「はせ掛け」を用い、学生とともに脱穀を行った。11月末には「食と農」の博物館の古農具で脱穀を実施した。その感想が寄せられた。



至福の味「キノコ」シロアリと共生する幻のキノコシロアリタケ。梅雨の八重山諸島には、江口学長が全日本空手道選手権大会で優勝した。幻のキノコシロアリタケは、2015年夏の石垣島メシが生息している。を訪れた際に撮影したそのキノコはシロアリの。島内を丸3日間歩き、シロアリはキノコに幸運のワンシヨットである。【寺田守二】

ホーリック 学び舎としてのオホーリックで「探究学習」

初の試みに大阪府6高校99名が参加

今夏、北海道オホーリックキャンパスでは大阪府の高校生を対象に「探究学習」(オホーリック学)を実施した。参加校6校、参加者は高校生99名、教員9名の総勢99名であった。これは大規模な探究学習の受け入れは、当キャンパス初の試みでもある。

参加校を募る際、高校教員から「オホーリックにおける学びの特徴は何ですか?」と訊かれることがよくあった。この質問に対しては「『社会の課題を『他人事』ではなく『自分事』に捉え、主体的に考えるきっかけを生み出す学びです』と伝えてきた。

オホーリックの学生は、地域特性を生かした学びを通じ、日々大きく成長している。開学以来30数年が経ち、オホーリックの学生にとって定番となった「農業・農学・環境」が、第二次産業に与える影響は計り知れない。日本の中でも農業・漁業屈指の現場を目の当たりにし、これを生業とする従事者の生の声を聴けることが、あらゆる事象を自分事に置き換え、学生の考える力、解決する力、生きる力を育んでいる。

東京農大の伝統である実学主義は、現場に学び、五感を感じることにある。『学び舎』としてのオホーリックは、学びの質を「探究」から「探究」へと切り替えるきっかけを生み出す地である。

【上田智久自然資源経営学科教授】
きく成長している。開学以来30数年が経ち、オホーリックの学生にとって定番となった「農業・農学・環境」が、第二次産業に与える影響は計り知れない。日本の中でも農業・漁業屈指の現場を目の当たりにし、これを生業とする従事者の生の声を聴けることが、あらゆる事象を自分事に置き換え、学生の考える力、解決する力、生きる力を育んでいる。

副学長 Report

日本全国を横断するフィールド施設

ブランド力発信・地域貢献の役割も有す大きな財産

今号から連載する副学長による研究や大学の魅力を紹介するコーナー。初回は、本学が誇るフィールド施設についての桑山副学長によるレポートです。

「フィールド科学を重視した実学教育」——これは、江口学長の掲げる施策の一つです。

東京農大は、北海道において大規模畑作農業を展開する「網走寒地農場」、実践的な水産学を学ぶ「臨海研究センター」、首都圏に最も近い山岳公園である秩父多摩甲斐国立公園内森林の仕事を学ぶ「奥多摩演習林」、静岡県の朝霧高原に位置し酪農、肉牛、養豚、家禽部門を学ぶ「富士農場」II写真、神奈川県に位置し園芸作物、造園、農業機械について学ぶ「伊勢原農場」、伊勢原農場の一部として稲作と工芸作物を集約した「棚沢圃場」、沖縄の宮古島に位置し熱帯・亜熱帯農業を学ぶ「宮古亜熱帯農場」のフィールド施設に加え、世田谷キャンパスの「食品加工技術センター」、オホーリックキャンパスの「食品加工施設」、厚木キャンパスの「食品加工施設」、120種の自然樹木と300種の栽培樹木を有する「植物園」、人と動物植物との関わりを学ぶ「生き物連携センター」など多くのフィールド施設を有しています。

日本全国を横断するフィールド施設は、本学の大きな財産です。私も全施設を視察させていた



日本各地にある本学のフィールド施設

だき、専門外のフィールド施設からも多くのことを学び、大受刺激を受け、ぜひ多くの学生にそれを感じてもらいたいと思います。一昨年から稲花小学校の本

【桑山岳人(副学長)】
の身体験を通じて学び、その多くをより良い社会の実現のためにどのように生かしていくかも本学の大きな使命の一つだと思います。

【桑山岳人(副学長)】
の身体験を通じて学び、その多くをより良い社会の実現のためにどのように生かしていくかも本学の大きな使命の一つだと思います。

のフィールド施設を使った校外学習も始まりました。また、フィールド施設は、教育・研究の他にブランド力発信、地域貢献等の役割も有しています。地球規模の持続可能な開発目標は全世界共通の目標であり、それを真に理解し実現していくためには、フィールドから多くの

「小清水ガストロノミー」

食材と小麦畑の魅力発信

アートな空間で料理と景観を提供

東京農大では、地域の魅力を「食」を通じて理解・共感・発信する方法としてガストロノミー和訳「美食学」の推進に力を入

れている。この「東京農大ガストロノミー」活動の一環として2022年7月16日、北海道小清水町を舞台に地域イベント「小清水ガストロノミー」が開催されたII写真。

このイベントは、[local]と題し、食を通じた学びの場を大切とするガストロノミーと、アートな空間演出を通じて小麦畑の持つ役割(食料生産・景観保全・文化保護など)を再認識・評価し、小清水町の農業の新たな価値表現を目指したものである。

単に地域食材を活用した食事を提供するのではなく、小清水の農業を歴史的視点から紐解き、学びの要素をコース料理で表現した。景観としての小麦畑の魅力を伝えるために、学生たちは各業界で活躍

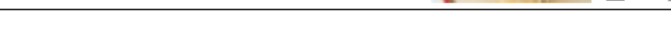
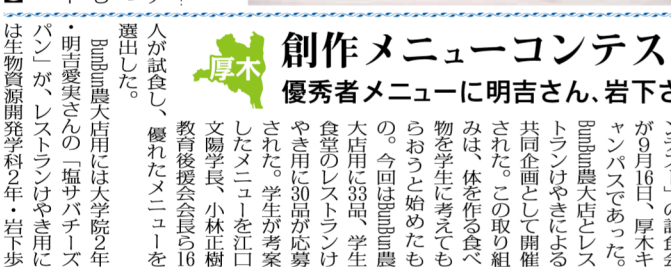
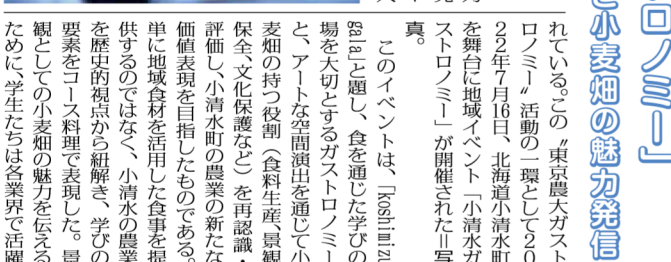
【小川繁幸(自然資源経営学科准教授)】
食事をサーブした学生たちII額縁に見立てたフレームに収まる絵画風に



するクリエイター協力のもと、アートの視点から空間演出を行った。東京農大の実学を学生とともに実践できた農大らしいイベントであった。

【小川繁幸(自然資源経営学科准教授)】
人が試食し、優れたメニューを選出した。

【企画広報室】
「鶏の南蛮漬」
＝BunBun農大店で販売中●



3年ぶりの対面での収穫祭



制作した神輿の前に勢ぞろいした厚木統一本部メンバー

131回目となった世田谷キャンパスの収穫祭テーマは「はばたく、農のちから」。恒例となってきた大人気のはちみつ、特製みそは事前予約で販売し、すぐに完売した。他にも、即売店で学生が開発した抹茶ようかんや手作りジャムなどを販売。今回、統一本部

では各学科の案山子を作った。サイエンスポットに設置され、多くの来場者を歓迎した。

「はばたく、農のちから」

3キャンパスに多くの来場者

東京農業大学収穫祭が、3年ぶりに対面のかたちで開催された。10月9日に北海道オホーツクキャンパス、10月28～30日に世田谷キャンパス、10月29～30日に厚木キャンパスでそれぞれ催された。いずれも事前予約制をとったが、多くの方にお越しいただき賑わいをみせた。

【磯沼 玲】

お披露目された。また、厚木キャンパス収穫祭の名物でもある野菜の無料配布も行われ、多くの来場者が列を作った。また、親子限定的な

「New standard」

34回目のオホーツクキャンパスの収穫祭は今年2日間にわたって開催された。残念ながら2日目が悪天候により学内開催となったが、1日目は約1300人に来場していた。今年には「未来の新しい収穫祭の基盤を作っていく」という意気込みか

つまいも掘り体験もあった。農学科統一本部が栽培したつまいもを収穫し、農業の面白さを子供たちに伝える良い機会となった。

ら「New standard」をテーマとした。新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を講じた上で、模擬店で「はちみつ」をテーマに採れたての新鮮なものを売った。また、オホーツクの農産物、海産物やクラフトなど、地元のお店に協力してもらった出店を行い、農大マルシェとして、北海道内外を問わず多くの来場者にオホーツクの魅力を発信した。

荒川弘〈百姓貴族〉× TOKYO NODAI 2022

漫画家・荒川弘氏の秘蔵コレクションなど

見どころ満載

東京農業大学「食と農」の博物館では現在「荒川弘 自 姓書 展 X TOKYO NODAI 2022」を開催している。漫画家の荒川弘氏が描いたマンガのパネルや秘蔵コレクションのほか、各テーマに沿った教

員、校長、その他さまざまな専門家が展示解説を行う夢のコラボレーション企画です。農業の楽しさ、苦労、大切さ、農家の幅広さ、奥深さ、面白さを感じていただけたらと思います。

荒川氏の秘蔵コレクションは来年1月から展示替えを行い、新しい作品も展示される予定です。

【企画広報室】

オープニングセレモニーでのテープカット＝開催初日の10月14日

新宿から甲府を経由し特急電車。2時間半の距離に山梨県西八代郡市川三郷町がある。甲府盆地の南端に位置し、日本三大急流の1つである富士川が流れ、川沿いのには広々とした畑が広がっている。

甲府盆地南端の市川三郷町で農場を営む東京農大卒業生の夫婦がいる。根津弘毅さんと根津美奈子さんだ。根津さん夫婦は2020年、平坦地で標高が低く温暖な虫が発生しやすい地域での有機栽培に成功したことが評価され、山梨日報新聞社等が主催する「山日YBS農業賞チャレンジャー賞」を受賞した。

てませんでした。と物腰柔らかに笑顔で語るのは夫の根津弘毅さんだ。東京出身で両親が農家でない家庭で育った。学生時代は3年次にメキシコチャピンゴ自治大学の短期留学に参加し、のちに妻となる美奈子さんと出会った。弘毅さんはその翌年、同大学の長期留学1期生として大学を代表して派遣された。帰国したのは4年生の夏。就活と呼べる時期は過ぎており、9月にはリーマンショックが

4年生の3月に山梨県の有機農家で1週間、農業体験をした。と、卒業のタイミングで山梨に移住し、住み込みでの農業研修が始まった。毎朝、作業は日の出前に始まり、日の入りまで。夏場には12時間を優に超える長時間の作業が続く。1日のスケジュールとして各品目それぞれの時期をずらして収穫や箱詰めなど時間に追われるが、作業もある。年末に休みがあるだけで基本的に休日がない

生活が3年間も続いた。「研修先はスパルタで有名で逃げ出す人もいたのですが、動くことが好きな自分の性格に合っていて楽しかったです。いつか独立しようという目標があったので続けられました」と当時を笑顔で振り返る。研修を終えた後、東京で働いていた美奈子さんとともに今の拠点である市川三郷町で独立事業者となった。1年目は40品目の野菜に対して各品目それぞれの時期をずらして種をまき、虫の出方などの一つ一つのデータを取った。「虫が発生して全部ダメみたいなことを

小さな一歩は大きな一歩は

独立10年を経た現在、根津さん夫婦が作る野菜は、近隣のスーパーや生協、小学校の給食の食材としても使われている。スーパーには「おつ農場」の野菜コーナーが設けられ、自分達で配達をする。さまざまな出会いと体験を通じて、ま

悪いものは置けない

「毎日、スーパーに納品するんですが、ファンのお客さんが、野菜を持って帰ってくれるのは嬉しいですね。お客さんの声も拾えるから売り方を考えたり、鮮度の悪いものは置けないです。学生時代の留学先で互いに知り合ったことで、山梨県北杜市の有機農家さんとの農業体験など、さまざまな出会いと体験を通じて、ま

【斎藤孝太郎】

何が起こるかわからない人生だからこそ、やれることを見つけて小さな一歩を踏み出すことが、そが、人生を楽しく秘訣なのかもしれない。それがやがて大きな一歩になることを願っています。

活躍する卒業生

根津 弘毅
(2009年 食料環境経済学科卒業)

根津 美奈子
(2007年 栄養科学科卒業)



苦労を乗り越え夫婦で経営する有機農場

「就職をしようか」と悩んでいた時、同じゼミの人が農家さんで農業体験しているのを見て、そこで初めて農業に興味を持ち始めた。

3年間の研修生活は

生活が3年間も続いた。「研修先はスパルタで有名で逃げ出す人もいたのですが、動くことが好きな自分の性格に合っていて楽しかったです。いつか独立しようという目標があったので続けられました」と当時を笑顔で振り返る。研修を終えた後、東京で働いていた美奈子さんとともに今の拠点である市川三郷町で独立事業者となった。1年目は40品目の野菜に対して各品目それぞれの時期をずらして種をまき、虫の出方などの一つ一つのデータを取った。「虫が発生して全部ダメみたいなことを

小さな一歩は大きな一歩は

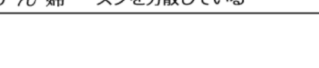
独立10年を経た現在、根津さん夫婦が作る野菜は、近隣のスーパーや生協、小学校の給食の食材としても使われている。スーパーには「おつ農場」の野菜コーナーが設けられ、自分達で配達をする。さまざまな出会いと体験を通じて、ま

悪いものは置けない

「毎日、スーパーに納品するんですが、ファンのお客さんが、野菜を持って帰ってくれるのは嬉しいですね。お客さんの声も拾えるから売り方を考えたり、鮮度の悪いものは置けないです。学生時代の留学先で互いに知り合ったことで、山梨県北杜市の有機農家さんとの農業体験など、さまざまな出会いと体験を通じて、ま

【斎藤孝太郎】

何が起こるかわからない人生だからこそ、やれることを見つけて小さな一歩を踏み出すことが、そが、人生を楽しく秘訣なのかもしれない。それがやがて大きな一歩になることを願っています。



農友会陸上競技部・女子長距離

3年ぶりに全日本大学女子駅伝出場



大会後の記念撮影をする選手たち、監督、関係者

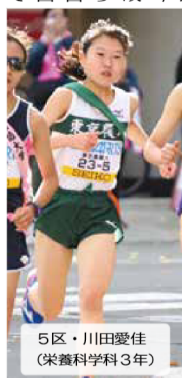
第40回全日本大学女子駅伝(社の都駅伝)が10月30日に宮城県仙台市で開かれ、東京農大の農友会陸上競技部・女子長距離チームが3年ぶりに出場した。選手全員が初めて経験する大会だったが、11位という結果を残した。これまでの軌跡について長田千治監督に話を聞いた。

シード権まで27秒差と迫る11位

シード権(上位8チーム)まで27秒差と迫る11位——コロナ禍でさまざまな負担を強いられるなかで残した結果だ。

寮生活にもチームは対策を講じて臨んできた。「寮の中で選手たちは自炊をしています。外食を避けてコロナをシャットアウトしました。陸上選手というのは24時間トレーニングなんです。寮を足り暴飲暴食をせず、生

活自体を根本的に改善しようという思いで、現状をできるだけ良い方向へと捉えるようにしました。こうした選手同士の取り組みやチームとしての意識が、好成績につながった大きな要因だ。「今年夏は夏合宿に入る前に故障者がなく、全員で行う朝練や、選手の実力に合わせたグループでの練習をしつかり行うことがで



5区・川田愛佳(栄養科学科3年) 1区・幸田明(栄養科学科2年)

きました。自分たちでやるという意識が、仙台で結果を出そうという強い思いになったという強い思いで臨んだ。選手たちは、普段から選手たちは、ベアになって行うマッサーを欠かさない。監督自身もやり方を教えないで女子長距離チームの今後の走り注目だ。

【企画広報室】

農大貢献賞に野口智弘教授

食品加工技術センターの取り組みを通し地域とも信頼関係

本学の名声を著しく高めることに貢献した教員を表彰する「東京農大貢献賞(農大貢献賞)」——今年では応用生物科学部の野口智弘教授が受賞。本稿ではその受賞者あいさつをお届けします。



応用生物科学部 野口 智弘 教授



屋久島との連携で開発した「たんかんジャム」



学生たちの実習風景

この度は大変名誉ある活用されていますが、当分の間は、食品加工技術センターのこれまでの取り組みに対する感謝の意を込めてお礼申し上げます。食品加工技術センターは農大の教育理念である「実学主義」を学

活は、卒業後のOB、OGの活用されていますが、当分の間は、食品加工技術センターのこれまでの取り組みに対する感謝の意を込めてお礼申し上げます。食品加工技術センターは農大の教育理念である「実学主義」を学

「野口智弘(応用生物科学部教授)」

世田谷キャンパス 農友会硬式野球部 北海道オホーツク 硬式野球部

プロ野球ドラフト

東京農大の2選手指名

楽天4位・伊藤菜央選手、ソフトバンク育成8位・宮崎颯選手

10月20日あったNPBプロ野球ドラフト会議で東京農大の2選手が指名された。東北楽天ゴールデンイーグルス4位に北海道オホーツク硬式野球部の伊藤菜央選手(生物産業学部自然資源経営学科4年)、福岡ソフトバンクホークス育成8位に世田谷キャンパス農友会硬式野球部の宮崎颯選手(地域環境科学部造園科学科4年)が指名された。両選手の活躍に期待したい。【企画広報室】



176㌘・80㌘/右投げ・左打ち 福島県立喜多方高校出身

全日本大学選手権で 完封達成のサイドスロー

伊藤選手は右腕から繰り出すサイドスローを武器に最速148㌘の直球とカーブ、スライダー、カットボール、シンカー、チェンジアップ、というバリエーション豊かな、切れのある変化球で打者を翻弄する。全日本大学野球選手権大会に3



180㌘・88㌘/左投げ・左打ち 埼玉栄高等学校出身

東都リーグで最優秀防御率賞の左腕

宮崎選手は左腕から放たれる最速147㌘の力強いストレートを武器に、2021年東都大学野球連盟秋季リーグ2部で防御率0.43という素晴らしい成績で最優秀防御率

全日本学生優勝大会に12年連続出場

2回戦進出も本数差で惜敗

第71回関東学生剣道優勝大会は10月30日にエディオン大会が9月11日に日本武道館であり、農友会剣道部が団体戦での全日本学生剣道優勝大会への出場権を獲得した。全日本大会出場はこれで12年連続となった。

惜しくも敗退となった。本大会が学生最後の試合となり、全員がやり切ったと感している。後輩には、一本に農大剣道部を託す。今大会の悔しさを4年生の思いを胸に、新体制となった農友会剣道部の今後の活躍に期待したい。【本村亮輔】



農友会剣道部の選手たち